

---

# 天元突破逢魔ヶ刻

シモン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天元突破逢魔ヶ刻

### 【Nコード】

N4093V

### 【作者名】

シモン

### 【あらすじ】

長い戦いが終わった逢魔ヶ刻動物園。

帰ってみると、園長の姿がなかった。

おかしいと思った一同は、園長を捜し始める。

その間際に見つけてしまった物、それは「黒い穴」だった。

とっても短いぶろろおぐ（前書き）

なんか自分で読んでも短い…。

## とっても短いぶろろおぐ

「ああ…学校疲れたーっ。」

いつもの様に蒼井華はのびをした。

「今日は天気がいいなあ。昨日はあんな雨降ってたのに？」

「やあ！蒼井さん！」

後ろから声をかけてきたのは菊池だった。

「あ、菊池くん！学校どうだった？」

「疲れたよ。今日はなぜかいつもと違う感じがするし 何だろう？」

菊池は首をかしげた。

「ハナちゃん！おかえり！」

飛び出してきたのはウワバミさんだった。

「ハナちゃん、あの 園長知らない？お昼頃から姿が見えないんだけど。」

「どうせタカヒロ君の上に乗って空飛んでるんじゃないんですか？」

「いいえ、タカヒロはいてるわ。」

「なんか厄介な事になりかねないですね…。」

## 第一話 園長じゃない（前書き）

あー．．。

## 第一話 園長じゃない

夕方。

「えんちよー・・・」

すでに搜索していたみんなはぐったりしていた。

探し始めた時からもう3時間も経っている。

華「ウワバミさん、こんな山の見つかりにくい所、目で探さずにピット器官使えばどうです？」

ウ「あ・・・」

華「最初からそうすれば良かったんだ・・・」

疲れ果てたのか、華は地面に倒れ込んだ。

ウ「みんなー！一番近くで園長と同じような熱源を見つけたわ！あつちよ！」

一同「ヤッター！」

みんなはウワバミの指差す方向へ走り出した。

誰か「やっぱウワバミさんは早いよ！10分で見つかったもんなあ！」

ウ「ふふ。」

みんなが走っていった後で、ウワバミは華へ駆け寄った。

ウ「ハナちゃん！起きて！」

華「ううん、あ！園長…あれ？みんなは！？」

起きた華はきよんとしていた。

ウ「みんな園長らしきものを見つけたから走っていったわ。」

華「そうですか。」

ウ「ほら、行きましょう。」

華「はい。」

大上「ウワバミ、園長のとこまで後どの位・・・？」

ウ「おかしいわ。さっきはここに熱源があったというのに・・・！」

華「動いてるんですか？園長ならありうる事でしょう？」

ウ「そうね。ありえるかも。」

大上「いや、そういう問題じゃなくてだな、もう30分位走ってる様な気がするんだが・・・」

大上は息切れしていた。

華「知多くん多分道のど真ん中で倒れてると思う・・・」

その時だった。

「うわああああ！」

悲鳴が聞こえた。

華「！？」

ウ「何！？」

後ろには、とてつもなく強大な黒い穴があった。

ウ&華「・・・ブラックホール！？」

大上「うわああああああ！！」

ウ「大上！」

大上は突風に巻き込まれ、黒い穴の中に吸い込まれていった。

華「ウワバミさん！木につかまって！」

ウ「ハナちゃん！みんなが　！知多！イガラシ！ゴリコン！！」

華「早く！」

華はウワバミの手を掴んだ。

「あ」

ウワバミはすでに足が地面から離れていた。

華も巻き添えになり、吸い込まれていった。

「きゃああああああああ……！！！！！！」





## 第一話 園長じゃない（後書き）

シモン「なんかプロローグと違って長いね。」

ウワバミ「あんたが書いてるんですよ。」

華「そうですね。プロローグ数行で終わりましたもんね。」

シモン「さあ、2話目も張り切って行くぞ！」

一同「オーーーーー！！！」

## 第2話 あいつら何者？（前書き）

あー……。

（>A<）（）（）（）（）（）

## 第2話 あいつら何者？

ドオオオオン。

華達はその大きな音と振動で目を覚ました。

華「んっ！？何の音？」

華は目を見開いた。

さっきまでとは違う所にいてたからだった。

穴に吸い込まれてしまう前までは草が茂った蒸し暑い山の中だったが、今は草木が一本も生えていない、砂漠の様な場所にみんながまとまって転がっていた。

ウ「ハ ハナ：ちゃん、ここ、どこ…？」

ウワバミは震える声で華に語りかけた。

華「解りません 大体、ここが何なのかも特定できません。」  
その時だった。

さっきまで眩しく照っていた太陽の光が、何かに遮られた。  
後ろ以外を見回してみる。

大きな影だった。

華「あの…こういう場合、必ず後ろに…」

華とウワバミは後ろにゆっくりと視線を向けた。

「いるんですね、ヤバイのが」

案の定、後ろにはいた。

誰もが見たことが無いであろう、巨大なロボットが。

ウ&華「ぎゃあああああああああ！！！！」

他の動物達は、その悲鳴で一斉に起きた。

特に、加西は起きるのが0.8秒ぐらいみんなより早かった。

ロボットから声が聞こえた。

「何だあ！？何で獣人がこんな所に？」

ロボットは華達が思っていたより早く動いた。

「わーっ！」

ロボットは大上を掴み、持ち上げた。

華「大上君！」

次の瞬間、シンドが飛び出した。

シンド「殺す！！！！」

ロボットの頭部を殴った。

が、ロボットはびくともしない。

シンド「っ……！！」

ロボット「何だオマエ？」

ウワバミ「みんな！逃げて！！」

華「でも……大上君が……！」

知多「大丈夫だし！」

知多は急にロボットめがけて突っ込んだ。

ロボット「ぎゃ！」

ロボットの腕は急に爆発した。

しかし、その後ろにはゴリコンがいていた。

大上は爆発の反動で吹っ飛び、悲鳴をあげた。

知多はすぐさま大上の所へ走り、大上をキャッチした。

ウワバミ「逃げてえ！！！！」

ウワバミの合図とともに、皆は走り出した。

ロボット「ま、待てえええ！！！！」

ウワバミは逃げながら思った。

「……、あいつら何者……？」

## 第2話 あいつら何者？（後書き）

何か無茶な設定した様な気がする……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4093v/>

---

天元突破逢魔ヶ刻

2011年10月9日07時44分発行